

新学長としてのご挨拶 ー教職員の皆さんへー

4月1日に辞令を受け、埼玉大学第13代学長に就任いたしました。国立大学を取り巻く厳しい環境の中で、大学運営を担うことを思うとその責任の重さに身の引き締まる思いがあります。教職員、学生との活発な意見交換を基に、全ての構成員が本学で充実した日々を過ごすことができるよう、また、多くの成果を上げられるよう全力を尽くす所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。まずは就任にあたっての抱負を述べたいと思います。

「大学の使命を意識した運営を目指します」

現在、国立大学は極めて厳しい状況に置かれております。国立大学法人化後、運営費交付金の減額や成果に基づく傾斜配分の導入・拡充による大学経営の圧迫、少子化に伴う18歳人口の減少による入学定員の見直し、次々に策定される国の指針や要求への対応等に追われ、ともすれば、我々の立ち位置を見失うことにもなりかねない状況となっております。しかし、言うまでもなく、大学の使命は次世代を担う学生たちに将来を生き抜く力を付ける教育と、基礎・応用研究の活性化による知の地平の開拓と現代的課題の解決、及びそこから派生した知識や経験を基にした社会貢献であります。私は、この大学の使命を常に意識するとともに、判断に迷うことがあれば、この原点に立ち返って考えていきたいと思います。また、本学の現状を再点検して、必ずしも機能的とは言えない組織や形式化してしまっている規則を洗い出し、原点からの検討・検証をもとに、大胆な見直しを行っていきたいと考えています。

「教育・研究の活性化を図ります」

教育と研究は大学の根幹をなすものです。これまで培ってきた教育研究資源や優れた取組を活かして、更なる充実のための施策を考え実行に移していきます。現在、研究を進めるうえで欠かせない「人」、「金」そして「時間」の確保が益々難しくなっていると認識しています。この状況は、本学だけではなく日本全体を覆う構造的問題であることから、本学単独で短期に回復させるのは容易なことではないと危惧しています。しかし、まずは科研費を含む外部資金獲得のためにURAやオープンイノベーションセンターの活用を行うことで安定的な研究資金の獲得を目指したいと思います。また、昨年度から取り組まれている「時間回復プロジェクト」を更に推進させることにより教育研究に使える時間を確保したいと思います。一方、教育に関しての喫緊の課題は教学マネジメント指針、教育の質保証等への対応、新たな教養教育の展開と数理データサイエンス科目の新設です。これらの案件は、人材育成の観点を重視しつつ、関係部署との議論と連携を基にして対処していきます。また、中長期的には、教員間の融合研究の促進や教育リソースの適正化を図るために、教育研究組織の見直し・再編や学生の副専攻等についても議論の俎上にあげて検討したいと考えています。

「学内の教職員の意見を聴き施策に反映させます」

大学執行部内はもちろん、各部局長や教職員との積極的な議論を行っていききたいと思います。そのために、全学運営会議の運営方法の変更や、定期的な部局長との意見交換、情報共有をする場を設定するとともに、可能な限り、個々の教職員の意見を聴く機会をつくりまします。また、大学のミッションを効率的かつ着実に果たしていくために、教職員から大学運営のアイデアや建設的な提言を募り検討してまいります。ただ、このような手法は、議論のための議論やポピュリズムに陥る可能性も否定できません。議論の流れは大事にしつつも、時期を逸することなくタイムリーな決定を行っていききたいと思います。

「埼玉大学のプレゼンスをあげる取り組みを強化します」

本学は、これまで、教職員の努力によって、研究、留学、リカレント教育、行政機関が設置する委員会への参画、小中高生への教育、公開講座等で優れた多くの成果を残してきました。しかし、残念ながら社会の認知度が高いとは言えません。このような本学の取組と成果を更に効果的に社会に広報すべきであると考えます。また、他大学で行われている先進的な事例や優れた取組も参考にし、新たな本学の魅力を発掘して、積極的に情報発信していきたいと思えます。このことにより、本学の教育、研究、社会貢献を社会にアピールし、プレゼンスを上げていきます。

「教職協働を進める仕組み作りと意識改革を進めます」

大学のミッションは教育と研究の活性化ですが、それを支える大学マネジメントは、教育、研究とともに三本の柱のひとつであり極めて重要と考えます。教育と研究は主に教員が担いますが、大学マネジメントについてはその知識や経験を活かして職員が中心となって展開できる仕組みを考えます。職員が企画、立案、実行までできる仕組みを導入することは職員の大学運営への参画意識を高めるとともに、教員が教育研究に当てる時間の確保にも繋がり、大学活性化の起爆剤にもなり得ると思えます。教職員の意識改革、職員の人材育成、職員の能力が発揮できる組織の構築を進めてまいります。

「埼玉大学 All in One Campus at 首都圏埼玉」は、本学の特徴と強みをよく表しているフレーズです。ひとつのキャンパスに全学部があつて顔の見える関係を持てる利点を活かして、本学の将来を議論し着実に進んでいきたいと思えます。そのためには、何よりも、教職員の皆さんのご理解とご協力が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。

2020年4月1日

埼玉大学長 坂井貴文